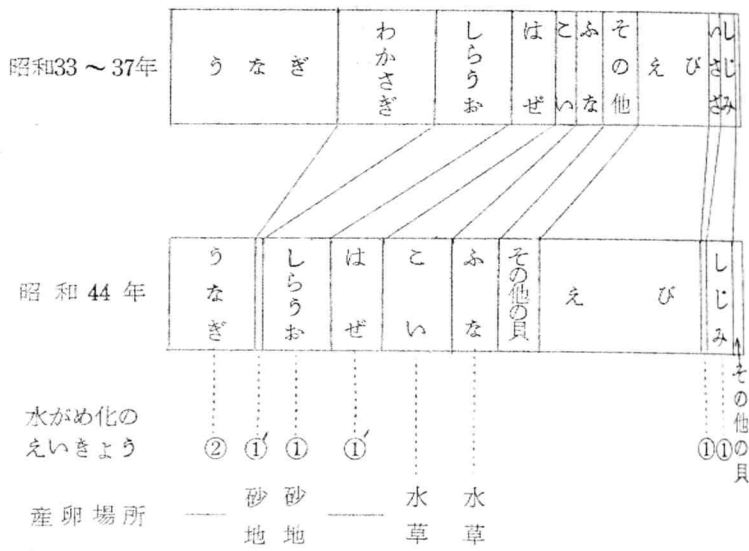


図一3 霞ヶ浦の漁業（金額による漁獲率）

50%

100%



ケ浦には上って来れなくなる。
 第三に、循環不足と底泥の堆積により、富栄養化は急速に進行するだろう。これら水質汚濁の進行は、霞ヶ浦のすべての生物に影響を与え、水道水源としての水質にも、多くの問題をひきおこすだろう。

図一3には、霞ヶ浦でとれる主な魚や貝の金額による漁獲高の割合をグラフで示した。同図の上には昭和三十三年から三十七年の平均値（水利調整研究会著、「霞ヶ浦用水計画の研究」）、下には昭和四十四年の値（茨城県調査）である。金額で示すことには、多小抵抗があるが、漁民の生活の問題として考えたときにわかりやすい。

グラフの下には、まず、水がめ化によって予想される影響を、第一、淡水化により影響をうける魚族、第二、遡河が不可能になることにより影響をうける魚族に分け、それぞれ、①②で表わし、更に、いさざあみを重要な飼料としていて、その死滅により影響をうける魚族を①で示した。その下には、湖の沿岸が産卵場所である魚族について、波打際の砂地か、水草地帯の別を示した。これらは湖水位の急激な変動、とくに湖水位の低下によって壊滅的な打撃をうけることになる。

この図をみていただければ、霞ヶ浦の漁業が、この四〇